

Cisco IOS XEソフトウェアのHTTPサーバテレフォニーサービスにおけるDoS脆弱性



アドバイザリーID : cisco-sa-httpsrvr-dos-yOZThut [CVE-2024-20436](#)
初公開日 : 2024-09-25 16:00
バージョン 1.0 : Final
CVSSスコア : [8.6](#)
回避策 : No workarounds available
Cisco バグ ID : [CSCwh94964](#)

日本語による情報は、英語による原文の非公式な翻訳であり、英語原文との間で内容の齟齬がある場合には、英語原文が優先します。

概要

テレフォニーサービス機能が有効な場合のCisco IOS XEソフトウェアのHTTPサーバ機能の脆弱性により、認証されていないリモートの攻撃者が該当デバイスにサービス妨害(DoS)状態を引き起こす可能性があります。

この脆弱性は、特定のURLにアクセスする際のヌルポインタの逆参照に起因します。攻撃者は、巧妙に細工されたHTTPトラフィックを該当デバイスに送信することにより、この脆弱性を不正利用する可能性があります。エクスプロイトに成功すると、攻撃者は該当デバイスのリロードを引き起こし、該当デバイスでDoS状態が発生する可能性があります。

シスコはこの脆弱性に対処するソフトウェアアップデートをリリースしています。この脆弱性に対処する回避策はありません。

このアドバイザリーは、次のリンクより確認できます。

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-httpsrvr-dos-yOZThut>

このアドバイザリーは、Cisco IOSソフトウェアおよびIOS XEソフトウェアのセキュリティアドバイザリーバンドル公開の2024年9月リリースの一部です。アドバイザリーとリンクの一覧については、『[Cisco Event Response: September 2024 Semiannual Cisco IOS and IOS XE Software Security Advisory Bundled Publication](#)』を参照してください。

該当製品

脆弱性のある製品

この脆弱性は、Cisco IOS XEソフトウェアの脆弱性が存在するリリースを実行し、HTTPサーバ機能およびテレフォニーサービス機能が有効になっているシスコ製品に影響を与えます。

脆弱性が存在する Cisco ソフトウェアリリースについては、このアドバイザリの「修正済みソフトウェア」セクションを参照してください。

テレフォニーサービス設定の確認

テレフォニーサービス機能がデバイスで有効になっているかどうかを確認するには、デバイスにログインして `show running-config | include telephony-service` コマンドを使用し、グローバルコンフィギュレーションに `telephony-service` コマンドが含まれるかどうかを確認します。

以下に、`show running-config | include telephony-service` コマンドの出力を示します。このデバイスではテレフォニーサービス機能が有効になっています。

```
<#root>
Router#
show running-config | include telephony-service

telephony-service
```

```
Router#
```

注：出力が返されない場合、デバイスに脆弱性はありません。

HTTP サーバ設定の確認

あるデバイスで HTTP サーバが有効かどうかを判断するには、デバイスにログインし、CLI で `show running-config | include ip http server|secure|active` コマンドを使用して、グローバルコンフィギュレーションに `ip http server` コマンドまたは `ip http secure-server` コマンドがあるかどうかを確認します。| `include ip http server|secure|active` コマンドを使用して、グローバルコンフィギュレーションに `ip http server` コマンドまたは `ip http secure-server` コマンドがあるかどうかを確認します。どちらかのコマンドが含まれている場合は、HTTP サーバ機能が有効です。

以下に、`show running-config | include ip http server|secure|active` コマンドの出力を示しています。

```
<#root>
Router#
```

```
show running-config | include ip http server|secure|active
```

```
ip http server  
ip http secure-server
```

注：デバイス設定に、これらのコマンドのいずれかまたは両方が含まれている場合は、Web UI 機能が有効になっています。

ip http server コマンドが存在し、設定に ip http active-session-modules none も含まれている場合、脆弱性が HTTP 経由で 익스프로イトされることはありません。

ip http secure-server コマンドが存在し、設定に ip http secure-active-session-modules none が含まれている場合、脆弱性が HTTPS 経由で 익스프로イトされることはありません。

脆弱性を含んでいないことが確認された製品

[このアドバイザリの脆弱性のある製品セクションに記載されている製品のみが、この脆弱性の影響を受けることが分かっています。](#)

シスコは、この脆弱性が以下のシスコ製品には影響を与えないことを確認しました。

- IOS ソフトウェア
- IOS XR ソフトウェア
- Meraki 製品
- NX-OS ソフトウェア

回避策

この脆弱性に対処する回避策はありません。ただし、緩和策があります。

HTTP サーバ機能を無効にすると、この脆弱性に対する攻撃ベクトルが排除されるため、対象デバイスのアップグレードが可能になるまでの適切な対応策となる可能性があります。HTTP サーバ機能を無効にするには、グローバル コンフィギュレーション モードで no ip http server または no ip http secure-server コマンドを使用します。

この緩和策は導入されており、テスト環境では実証済みですが、お客様は、ご使用の環境および使用条件において適用性と有効性を判断する必要があります。また、導入されている回避策または緩和策が、お客様固有の導入シナリオおよび制限に基づいて、ネットワークの機能やパフォーマンスに悪影響を及ぼす可能性があることに注意してください。回避策や緩和策は、ご使用の環境への適用性と環境への影響を評価した後で導入してください。

修正済みソフトウェア

シスコはこのアドバイザリに記載された脆弱性に対処する無償のソフトウェアアップデートをリ

リリースしています。通常のソフトウェアアップデートが含まれるサービス契約をお持ちのお客様は、通常のアップデートチャネルからセキュリティ修正を取得する必要があります。

お客様がインストールしたりサポートを受けたりできるのは、ライセンスをご購入いただいたソフトウェアバージョンとフィーチャセットに対してのみとなります。そのようなソフトウェアアップグレードをインストール、ダウンロード、アクセスまたはその他の方法で使用した場合、お客様は以下のリンクに記載されたシスコのソフトウェアライセンスの条項に従うことに同意したことになります。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/end-user-license-agreement.html>

また、お客様がソフトウェアをダウンロードできるのは、ソフトウェアの有効なライセンスをシスコから直接、あるいはシスコ認定リセラーやパートナーから取得している場合に限りです。通常、これは以前購入したソフトウェアのメンテナンスアップグレードです。無償のセキュリティソフトウェアアップデートによって、お客様に新しいソフトウェアライセンス、追加ソフトウェアフィーチャセット、またはメジャーリビジョンアップグレードに対する権限が付与されることはありません。

Cisco.com の [シスコサポート & ダウンロードページ](#)には、ライセンスとダウンロードに関する情報が記載されています。このページには、[マイデバイス (My Devices)] ツールを使用するお客様のカスタマーデバイスサポート範囲も表示できます。

[ソフトウェアのアップグレード](#)を検討する際には、シスコセキュリティアドバイザリページで入手できるシスコ製品のアドバイザリを定期的に参照して、侵害を受ける可能性とアップグレードソリューション一式を確認してください。

いずれの場合も、アップグレードするデバイスに十分なメモリがあること、および現在のハードウェアとソフトウェアの構成が新規リリースで引き続き正しくサポートされていることを十分に確認してください。不明な点については、Cisco Technical Assistance Center (TAC) もしくは契約しているメンテナンスプロバイダーにお問い合わせください。

サービス契約をご利用でないお客様

シスコから直接購入したがシスコのサービス契約をご利用いただいていない場合、また、サードパーティベンダーから購入したが修正済みソフトウェアを購入先から入手できない場合は、Cisco TAC (https://www.cisco.com/c/ja_jp/support/web/tsd-cisco-worldwide-contacts.html) に連絡してアップグレードを入手してください。

無償アップグレードの対象製品であることを証明していただくために、製品のシリアル番号と、本アドバイザリの URL をご用意ください。

Cisco IOS および IOS XE ソフトウェア

お客様が Cisco IOS ソフトウェアおよび IOS XE ソフトウェアの脆弱性による侵害の可能性を判断できるように、シスコは Cisco Software Checker を提供しています。このツールを使うことで

、特定のソフトウェアリリースに関連するすべてのシスコ セキュリティ アドバイザリを検索でき、それぞれのアドバイザリで言及された脆弱性を修正した最初のリリース (「First Fixed」) を特定できます。また、該当する場合には、Software Checker により判別されたすべてのアドバイザリに記載のすべての脆弱性が修正された最初のリリース (「Combined First Fixed」) を特定できます。

このツールを使用するには、「[Cisco Software Checker](#)」ページの手順に従います。あるいは、次のフォームを使用して、シスコ セキュリティ アドバイザリに該当するリリースであるかどうかを確認します。このフォームを使用するには、次の手順に従います。

1. ツールで検索するアドバイザリを選択します。このアドバイザリのみ、[セキュリティ影響評価 \(SIR\)](#) が「重大」または「高」のアドバイザリのみ、すべてのアドバイザリのいずれかです。
2. リリース番号 (15.9(3)M2、17.3.3 など) を入力します。
3. [チェック (Check)] をクリックします。

2		Critical,High,Medium
このアドバイザのみ		
Enter release number	Check	

不正利用事例と公式発表

Cisco Product Security Incident Response Team (PSIRT) では、本アドバイザリに記載されている脆弱性のエクスプロイト事例とその公表は確認しておりません。

出典

本脆弱性は、シスコ内部でのセキュリティ テストによって発見されました。

URL

<https://sec.cloudapps.cisco.com/security/center/content/CiscoSecurityAdvisory/cisco-sa-httpsrvr-dos-yOZThut>

改訂履歴

バージョン	説明	セクション	ステータス	日付
1.0	初回公開リリース	—	Final	2024年9月25日

利用規約

本アドバイザーは無保証のものとしてご提供しており、いかなる種類の保証も示唆するものではありません。本アドバイザーの情報およびリンクの使用に関する責任の一切はそれらの使用者にあるものとします。また、シスコは本ドキュメントの内容を予告なしに変更したり、更新したりする権利を有します。

本アドバイザーの記述内容に関して情報配信の URL を省略し、単独の転載や意識を施した場合、当社が管理した情報とは見なされません。そうした情報は、事実誤認を引き起こしたり、重要な情報が欠落していたりする可能性があります。このドキュメントの情報は、シスコ製品のエンドユーザを対象としています。

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。